

聖徒の道

5

1995

ハワード・W・ハンター大管長
（一九〇七—一九九五年）追悼特集

末日聖徒
イエス・キリスト
教会



ハワード・W・ハンター

(1907年－1995年)

「主イエス・キリストの生涯と模範，特に主が示された愛と希望と慈悲に，これまで以上の注意を払って生活するようすべての教会員にお勧めします。私たちが互いにもっと親切にし，もっと礼儀を尽くし，もっと謙遜で，忍耐強く，赦し合えるように祈っています。」(ハワード・W・ハンター，1994年6月6日)

ハワード・W・ハンターは子供のころ(下，5歳)からやさしい心と優れた人格を有していた。このキリストのような特質は，彼が成長し使徒の職に就く(右ページ)につれ，次第に顕著となった。言葉と行ない，思いにおいて，彼は常に主に倣おうと努めてきた。

エリザベス・S・バンテンバーグ

ハワード・W・ハンター大管長は，教会員と世の人々にとって，主イエス・キリストが示された「愛と希望と慈悲」の模範でした。末日聖徒イエス・キリスト教会の第14代大管長として9カ月間その務めを果たした後，1995年3月3日金曜日午前8時35分，ハンター大管長は87歳でこの地上の務めを解かれ，ソルトレーク神殿の東側2ブロック目にあるアパートで息を引き取りました。葬儀は3月8日水曜日午後12時から，テンプルスクウェアのタバナクルで行なわれ，遺体はソルトレークシティ共同墓地に埋葬されました。

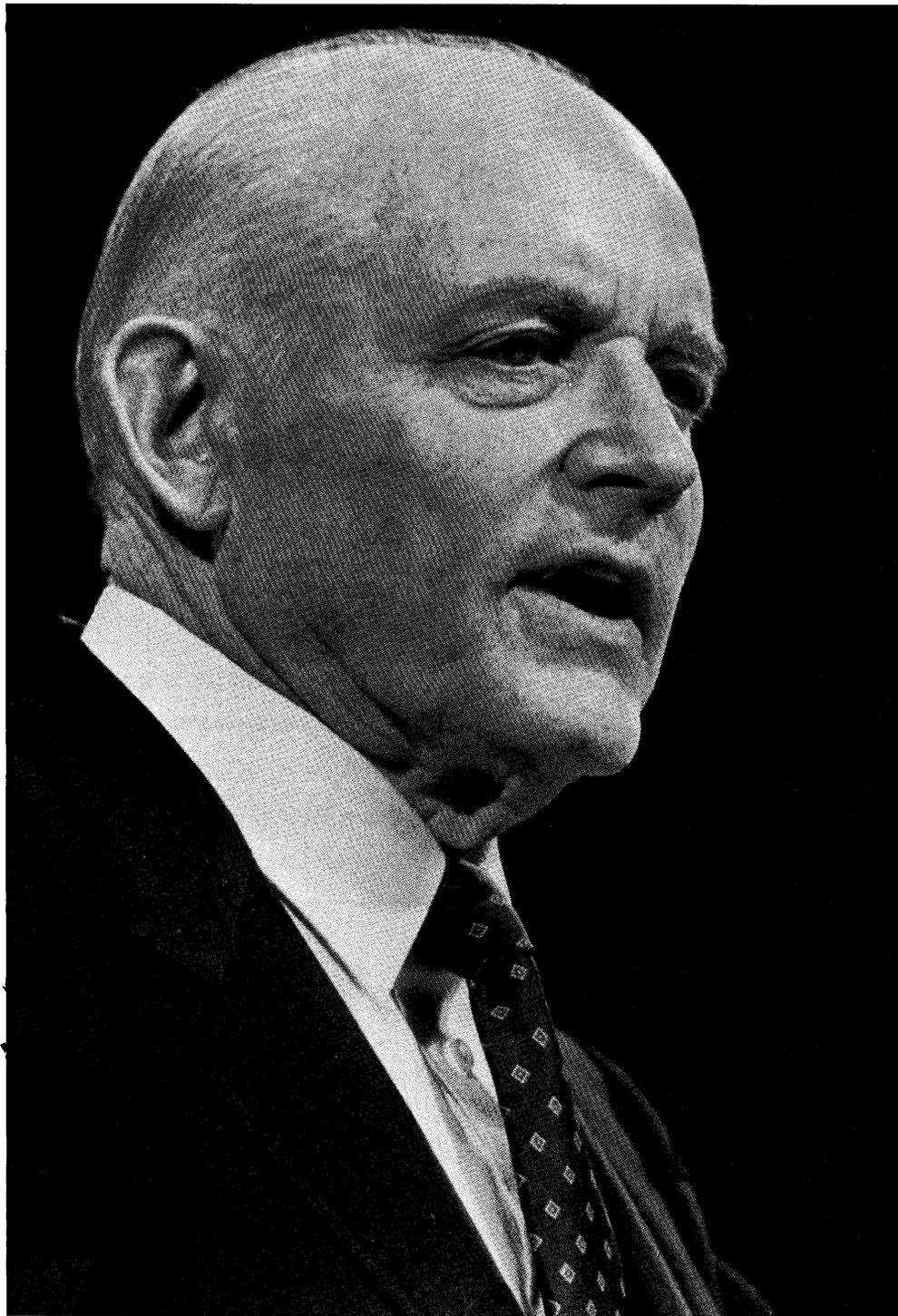
ハワード・W・ハンター長老はだれの目から見ても非凡な生涯を送りました。しかしハンター長老の重要な指導的立場を世の人々がどのようにたたえても，ハンター長老自身は，真の偉大さは世俗的な意味での成功の定義のうちにはなく，「神が全人類に共通して授けたもうた責任〔や〕……人々や主のためにみずからの生活を捧げて行なう奉仕や犠牲など，数え切れないほどさまざまな小さな事柄」の中にあることを知っていました。(『真の偉大さ』「聖徒の道」1982年7月号，pp.32-33)

きわめて慎み深いハンター大管長は，人との比較を嫌うかもしれませんが，まさに彼自身はその偉大さの定義に匹敵する人物でした。すでに人々の注目を集めるはるか以前に，彼は懸命に働き，挫折の後で再起を図り，同胞を助け，救い主の模範に従って生活するなどの転機となる決心をして，偉大さのへんりんをのぞかせていました。

教会の大管長に就任してからは，すべての末日聖徒に主イエス・キリストの模範に従い，「主の宮居を，教会員であることの崇高な象徴」とするように訴えました。(『教会員の偉大な象徴』「聖徒の道」1994年11月号，p.3) その生涯と働きは，献身と愛と謙遜さによって，彩られています。



大管長



神の性質にあずかる者

「救い主のすべての教えを学び、その模範にもっと完全に従いましょう。主は私たちに『いのちと信心とにかかわるすべてのこと』を授けてくださいました。また主は『栄光と徳とによって、わたしを召され……^{たつと}尊く、大いなる約束』を与えてくださいました。それは私たちが『神の性質にあずかる者となるため』です。(Ⅱペテロ1：3-4)

私はこの『尊く、大いなる約束』を信じ、私の声を聞いていらっしゃるすべてのかたがたに、それを求めるようにお勧めします。私たちは『神の性質にあずかる者』となるように努力しなければなりません。そうして初めて、『この世に在りては平和を得、次の世に在りては永遠の生命を得』るという望みを持つことができるのです。(教義と聖約59：23) (「聖徒の道」1995年1月号、p.9)



両親（下）はハワードに、熱心に働き、才能を伸ばすよう教えた。そして彼とクレアはそれらの徳を子供たち、リチャードとジョン（右ページ）にも継承させた。ハワードの数々の才能のひとつが音楽であった。上の写真は、ハワードが高校時代に編成した人気ダンスバンド。中央に立っているのがハワード。

苦闘時代と初期の苦難

1907年11月14日、ハワードはアイダホ州ボイシで、ジョン・ウィリアム（ウィル）・ハンターとネリー・マリー・ラスマッセンとの間に生まれました。彼はたったひとりの妹ドロシーと一緒にじゅうぶんな世話をを受けて楽しく育ちましたが、家庭は決して裕福ではありませんでした。父親はボイシ峡谷鉄道会社で運転手を務め、生活を支えるために母親もときどき臨時の勤めに出ていました。

少年時代、ハワードはとうもろこしの皮をむき、豆やりんごを収穫し、重い牛乳缶を何本も地元の酪農場から家まで運びました。10代のころはさまざまな仕事に就き、ゴルフ場のキャディー、アイスクリームソーダの販売、新聞広告の代筆などもしました。地元のホテルでベルボーイやポーター、整備係として働いたこともあります。こうした仕事を通して勤勉さをはぐくんできたおかげで、後年彼は、仕事でも教会でも多方面の仕事をこなすことができました。（エレノア・ノールズ著「ハワード・W・ハンター」（英文）p.45参照。特に出典の表記がないかぎり、この記事の引用ならびに情報はほとんどこの著書から採られています）

ハワードの母親のネリーは、子供たちと一緒に活発に末日聖徒イエス・キリスト教会に集いましたが、父親のウィルはどの教会ともかかわりを持ちませんでした。しかし時折、家族とともに教会に行くこともありました。父親の腕につかまって市街電車で教会から帰ったことは、子供のころのハワードの楽しい思い出のひとつとなっています。

ところがハワードが8歳になってバプテスマを受ける時期になると、ウィルはそれを許しませんでした。ハワードとドロシーに自分で判断できる年齢になるまで待つてほしかったのです。この延期はハワードにとってはつらい体験でした。12歳になっても執事になれず、ほかの少年たちと一緒に聖餐せいさんを配ることもできませんでした。その後、ウィルも息子の熱心な願いに負け、1920年4月4日、ハワードが12歳、ドロシーが10歳の時にふたりそろってバプテスマを受けることができました。

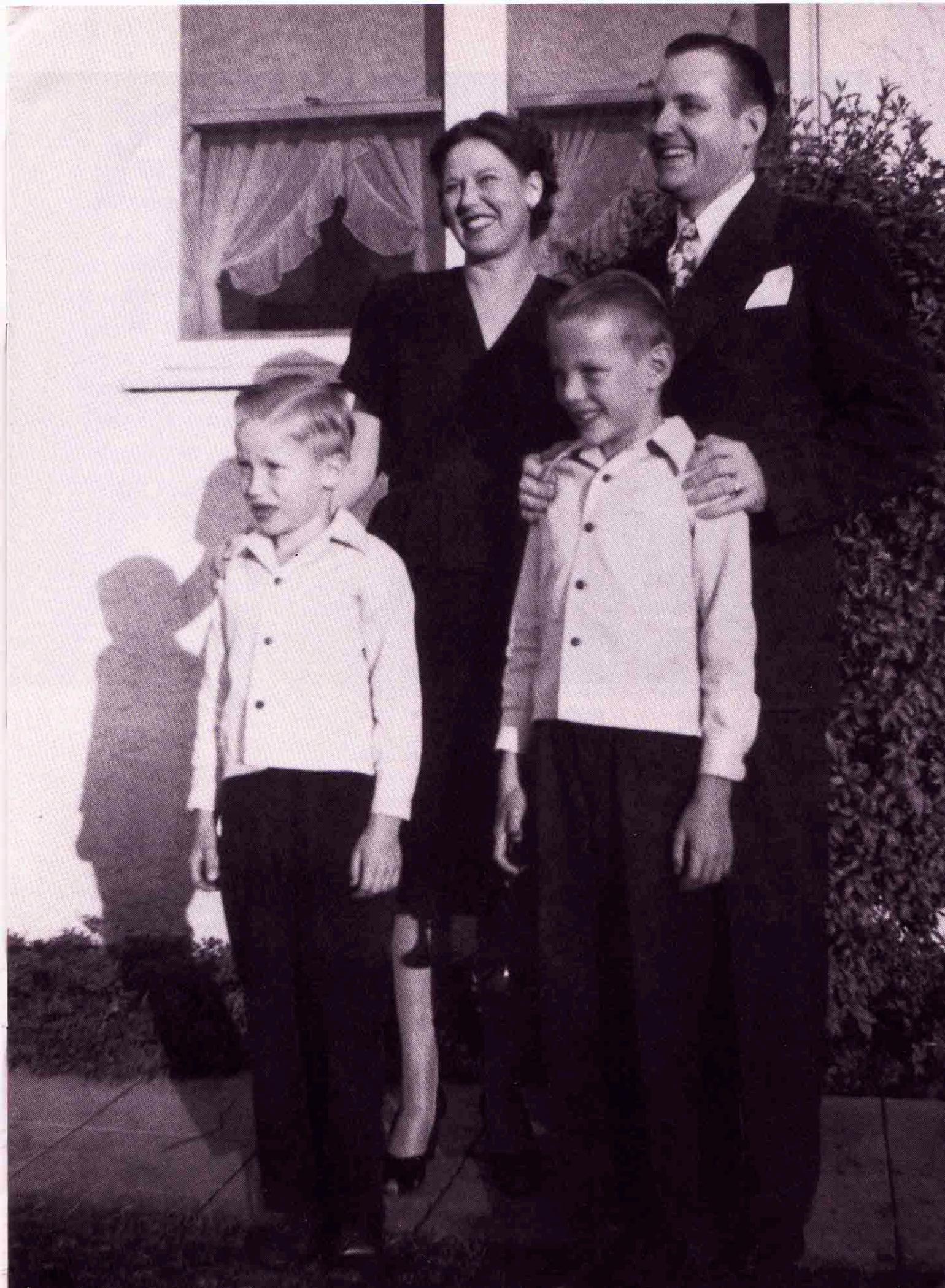
家族を守り、擁護する

「教会には家族を社会の基として守り、擁護する責任と権能があります。世の初めから定められた家族生活の様式によれば、子供たちは法律上正しく結婚した夫婦を父母として生まれ、養われます。

.....

現代の人々は今、家族の崩壊によって、予言者たちが告げた災いが世にもたらされるのではないかと恐れています。世の人々がどれほど協議を重ね熟考したところで、主が啓示されたとおりに家族を位置づけないかぎり、実りはありません。」（「聖徒の道」1995年1月号、p.10）







さらに大きな責任を受けるようになるにつれ、ハワード・W・ハンターは家族とともに過ごす時間を一層大切にするようになった。息子のジョンが伝道を終えると、ハンターとクリアは彼を世界旅行に連れて行った。(上) リチャードが伝道を終えた時も夫妻は同様にした。

バプテスマの後しばらくして、若いハワードの教会での奉仕が始まりました。寒い日曜日の朝に薪を用意して、礼拝堂の暖炉に火を入れる責任です。また彼は新しく始まったばかりのスカウトプログラムに参加し、ボイシでふたり目のイーグルスカウト(ボーイスカウトで最高の位)になりました。1923年にボイシの聖徒たちの会合で、礼拝に使用する大きな会堂を建てる話が出た時、最初に献金をしたのは15歳になるハワードでした。25ドルという、彼が懸命に働いてためた、当時としては相当な額を納めたのです。

ハワードの働きはワード部の中だけにとどまってはいません。少年時代から牛乳を配ったり、庭仕事をしたりして近所の人々を助けたり、家畜のえさやりや治療時に迷い出る動物がいないよう見張りをしたりしました。ドロシー・ハンター姉妹は、兄が少年時代から上品でやさしかったと述懐しています。

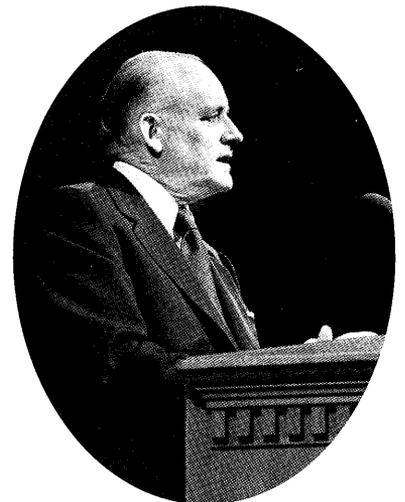
学業、音楽、海外旅行

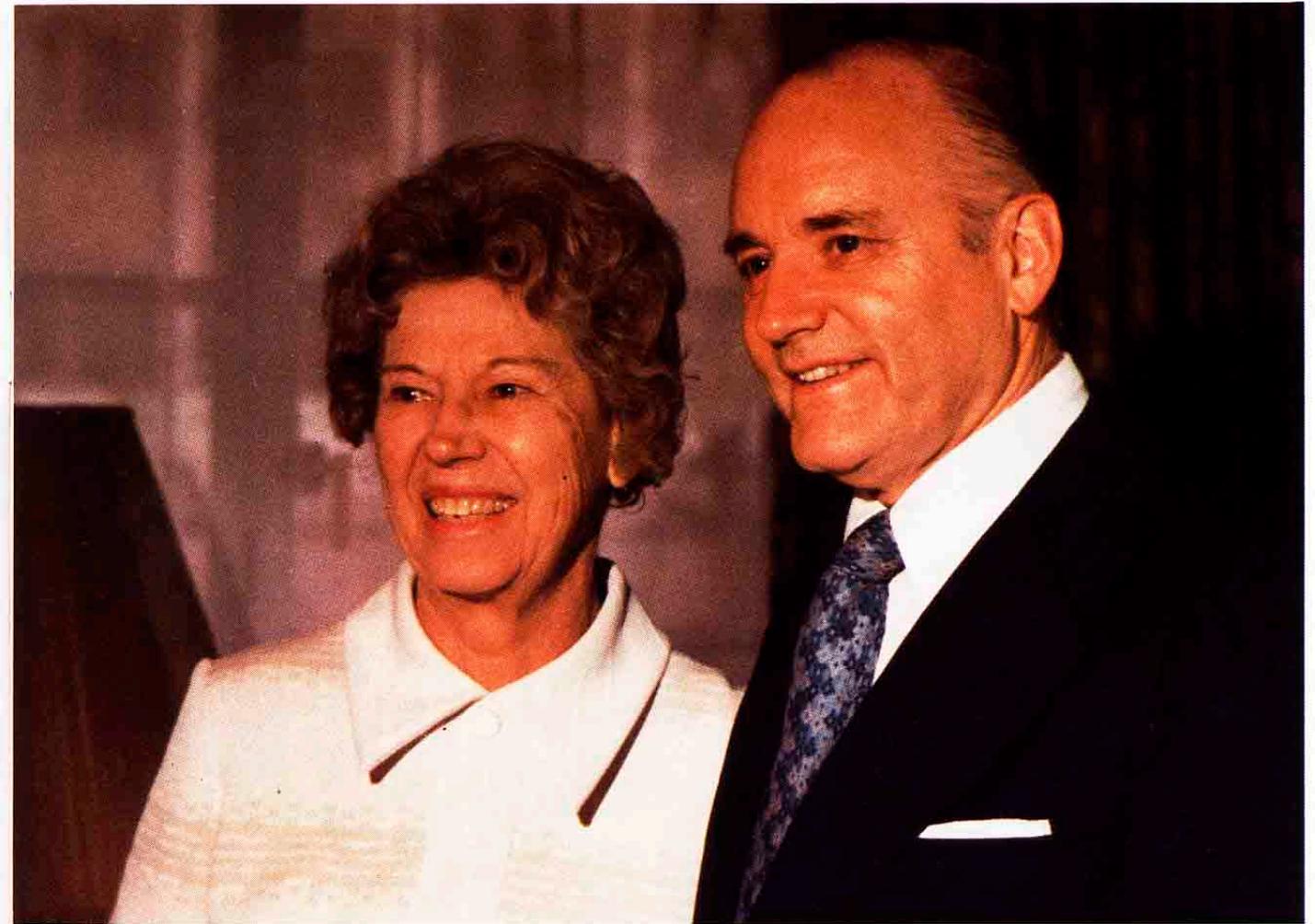
両親とも正規の教育はあまり受けていませんでしたが、ふたりはドロシーとハワードのために知的に豊かな家庭環境を整えました。子供たちはどちらも図書館をよく利用しました。父親のウィルは家庭に備えた地図や百科事典を使って、子供たちによく世界じゅうの国々のことを語って聞かせました。そのような話はハワードの心に旅行への抑えがたいあこがれを植えました。

彼は多少色盲で、運動競技に関心は薄かったものの、1920年代のボイシ高校では学業の面でも社交の面でも成功していました。また、バンド演奏を聴くためにガールフレンドを連れずにダンス会場へ足を運び、音楽への関心を深めました。幼いころにピアノとバイオリンのレッスンを受けて芽生えた音楽への関心は、楽器店のコンテストでマリimbaを賞品にもらってからさらに高まりました。彼はマリimbaをたちまち独習すると、次いで、ドラム、サクソフォン、クラリネット、後年にはトランペットまでこなしました。また1924年には、地区の人気ダンスバンドとなった「ハンターズ・クルーネイダース」を結成しました。

姉妹たち、教会幹部とともに 立ち上がりましょう

「私たちの主なる救い主は、まことに辱めと苦悶と死に際して、当時の女性たちに慰めの手や聞く耳、信じる心、やさしいまなざし、励ましの言葉、誠実さを求められました。同じように、私たちを取り巻く悪の潮流を食い止め、救い主のみ業を前進させるには、今日、教会の女性たちが集まって教会幹部とともに立ち、彼らを支持することは大いに必要であると、私には思われます。」(「聖徒の道」1995年1月号, pp.109-110)





使徒として35年間にわたる聖徒たちへの勧告の中で、ハンター長老は家族の重要性に焦点を当てて頻繁に話してきた。(左ページ) ハワードとクレアの互いへの献身は、愛に満ち、絶えることがなかった。クレアは常に夫の導きに従い、ハワードは夫人からの賢明な勧めを心に留めた。ふたりは互いに信頼し合い、愛し合い、相互の^{あんがい}安寧を守ろうと努めた。クレアは1983年に死去した。(上)

1926年6月3日にボイシ高校を卒業した時は、大学に進学するつもりでした。ところが、旅客船「SSプレジデント・ジャクソン号」に乗船し、2カ月間の洋上旅行で音楽演奏を担当するという話が東洋航路の船舶会社からハンターズ・クルーネイダーズに持ち込まれ、ハワードは1927年の1月から、数多い世界旅行の最初の旅に出帆しました。当時の航海を思い出して、彼はこう断言したものです。「私たちの経験は大学教育にじゅうぶん見合うものでしたよ。」

新天地——カリフォルニア

ボイシに戻ったハワードは、自分の不在中に父親がバプテスマを受けていたことを知って喜びました。ハワードは家庭を愛していましたが、自分の中の冒険心に誘われて挑戦を続けました。投機的な事業を始めて失敗した彼は、カリフォルニア州ロサンゼルス^{しんせき}の親戚や友人の所に行くことを決心しました。そこで彼はいろいろな仕事に就きます。中には、レモンを皮の色に従って選別する仕事がありました。これはハワードにはむずかしい仕事でした。色盲だったからです。

結局、当時カリフォルニアで最大の銀行であったイタリア銀行に職を得て生活が安定すると、すぐに銀行業について学ぶ夜間講座に登録しました。また地元のダンスバンドのドラマーになり、その地域の末日聖徒の独身成人たちと交際しました。

真の献身

「みずからの原則を守ろうとする力、自分の信念に従い誠実に信仰を持って生きる力、大切なのはこの点なのです。単なる『貢献』と『献身』との違いはここにあります。個々の生活の中で、家庭生活の中で、人と出会い人に影響を与えるすべての場所で、まことの原則に献身すること、これこそ、神が私たちに最終的に求めておられるものなのです。」（「聖徒の道」1990年7月号、p.65）

1928年、彼は両親や妹の元に引っ越します。家族は1920年代にカリフォルニアに流入した200万人の人々とともにすでに移住していました。

両親のアパートでの同居は重要な意義をもたらしました。というのも、ハワードの会員記録はアダムズワード部に移され、そこでひとりの日曜学校教師の影響を受けて彼は福音を熱心に研究し始めたからです。「福音の真理が開花し始めたのはこの時期だったと思います。」後に彼はそう記しています。

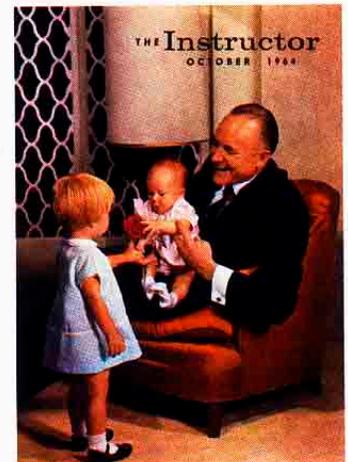
1930年3月、ハワードは祝福師の祝福を受けました。その祝福文の中で彼は「主があらかじめ（ハワードを）知っておられ」たこと、「現世で重要な業をなすために」すでに聖任されていることを告げられました。

当時ハワードは、1928年に教会のダンスパーティーで知り合ったひとりの若い女性、クララ（クレア）・メイ・ジェフスとデートをしていました。1931年の春ごろまでには、ふたりの間に愛が芽生えていました。そのころ彼は銀行で待遇のよい地位にあり、ちょうどアメリカ合衆国に大きな影響を与えていた大恐慌も彼らの生活にはかかわりがなさそうでした。ふたりは結婚を決意しました。

献身と挫折

結婚の決意はハワードに福音と家庭生活に対する新たな認識を与えました。神殿推薦状の面接の中でハワードの監督は、彼の什分の一じゅうぶんいちが示すわずかな収入で妻を養うことができるかどうか尋ねたのです。ハワードは「突然……自分が完全な什分の一を納めていないことの重大さに気づきました。」彼は持ち前の決断力で、「これからの結婚生活を通じて私たちはこの律法に従い、什分の一を最初に支払う」ということを、クレアと一緒に決めました。また、負債を負わないようにという教会幹部の教えにも従おうと決心しました。

ハワードはさらに、結婚する前にもうひとつの大切な結論に達しました。ミュージシャンとしての彼の生活は、どんなに魅力的でもうけのある仕事でも、自分がクレアや子供たちのために望んでいる家庭生活とは両立しないということです。そこ





ハンター長老は、1959年に使徒職に召され、教会での専任の奉仕に携わるようになった。以来35年間、教会歴史家（上）などさまざまな責任と家族に対する責任とを両立させてきた。左ページの写真は、彼が教会機関誌の1964年10月号表紙に孫娘のキャサリン、アンとともに掲載された時のもの。

でハワードは、自分の楽器を処分してしまいました。1931年6月6日のことでした。以来、彼が仕事として演奏したことは一度としてなく、その後はときどき家族全員で歌を歌うときに限って楽器を持ち出しました。

1931年6月10日、ハワードとクレアはソルトレーク神殿でこの世から永遠にわたる結婚をしました。ほとんどその直後から、ふたりにいくつもの試練が襲いかかってきました。1932年1月、ハワードの務めていた銀行がやむなく閉鎖になりました。さいわいにもふたりには負債がなかったので、小さな仕事を次々にこなし、彼の言葉によれば「飢えから救われ」ました。そのような仕事には、石けんの訪問販売や時給30セントでの雨どいの取り付け作業などがありました。そしてついに、自分たちだけで暮らしを立てることができなくなり、1933年にはクレアの両親と一緒に生活するようになりました。ハワードはよくクレアと一緒に工事現場に住み込み、義父に代わって鉄橋の塗装をしたりしました。

しかし1934年、ハワードはついに、ロサンゼルス郡洪水防止地区で安定した仕事を得ました。この仕事にはある程度の法律業務が含まれていたため、彼は間もなくロースクールに通いたくなりました。1935年から1939年までハワードは昼は専任の社員として働き、夜はサウスウエスタン大学のロースクールに通い、クレアと一緒に遅い夕食を取ってから深夜まで勉強しました。1939年にはクラスで3番という優秀な成績で卒業し、同じ年の後半にはカリフォルニア州で司法試験に合格しました。



学校に通いながら常勤の仕事に就くという困難の中で、この若い家族にさらにチャレンジが加わりました。1934年にハワード・ウィリアム・ジュニア（ビリー）が、1936年にはジョン・ジェイコブ、1938年にはリチャード・アレンがそれぞれ誕生します。ハワードとクレアにとって、この歳月は喜びと達成感の感じられる時期でした。しかし悲しみを味わう時期でもありました。当時はひとり息子であったビリーが生後6カ月で病気にかかり、内出血を止める手術の後、亡くなりました。ハワードは当時を思い返して、ふたりとも「うちひしがれ、悲嘆に暮れていました」と語っています。

すき 鋤にかけた手

1940年に入り、カリフォルニアで弁護士としての開業が認められると、ハワードは法律事務所を開きました。これは後に法律家として成功を収める第一歩となりました。また、同じ年の8月にはすばらしい出来事が起きました。アルハンブラワード部が分割され、32歳のハワードが新設されたエルセレンワード部の監督に召されたのです。この召しにまったく驚いたハワードは当時をこう述懐しています。「私は常々、監督はもっと年配の方がなるものと思っていました。」

ハンター監督は愛に満ちた、しかも確固とした指導者であることを証明しました。ある日曜日、ハンター監督は何人かの青少年が聖餐せいさんを配ってからそと集会を抜け出して軽食も扱う隣の雑貨店に行ったのを見届け、壇上を去って、その店に行き、カウンターのわきにおどおどして集まっている何人かの少年たちにこう告げました。「兄弟たち、シェークを飲み終わったら、また集会を続けようじゃないか。」

ハンター監督は1946年に解任されると、その4年後に、パサディナステーク部のステーク部長に召されました。その後9年半にわたって、新しいステーク部センターや1951年に建築が始まったロサンゼルス神殿の建築基金を集めるために、数多くの作業プロジェクトに参加するようステーク部の会員たちを励ましました。ステーク部長としての在職期間中、ハンター長老は複数のステーク部長によって構成される南カリフォルニア地区評議会の議長も務め、教会で正規のプロジェクトとして定められる15年も前からステーク部の会員たちに家庭の夕べを開くように奨励し、南カリフォルニアで早朝セミナープログラムを始めました。

ハンター大管長は教会の責任で広範囲にわたって頻繁に旅をした。1979年10月の使徒時代に、ハンター長老はエルサレムのオリブ山にあるオルソン・ハイド記念公園の奉献式で友人のテディ・コレック市長からエルサレム市のメダルを贈られた。当時大管長であったスペンサー・W・キンボール長老、その後大管長となるエズラ・タフト・ベンソン長老の顔も見える。（左上）十二使徒定員会会長代理のハンター長老と同定員会のデビッド・B・ヘイト長老。1987年10月の総大会で。（右上）

奉仕の試金石

「主は私たちのためにひとつの試金石を用意しておられると思います。弟子たる心を形として測り、私たちの信仰の度合いをしるしづけて、来るべき火にも屈しない方法です。……

主は……（ある）ときに、『わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである』（マタイ25：40）と言われました。主は私たちの献身の度合いを、^{ほら}同胞をいかに愛し、同胞に^{から}仕えるかによって測られることでしょう。主の試金石に、私たちはどんな跡をつけているでしょうか。私たちは本当に良い隣り人でしょうか。……

私たちは友を作りますが、神はどこにでも私たちに隣り人を用意しておられることを忘れてはなりません。愛には垣根がないはずで、愛に境界を定めてはなりません。』（「聖徒の道」1987年1月号、pp.37-38）



1994年6月5日、ハンター長老は末日聖徒イエス・キリスト教会の第14代大管長に聖任され、任命された。翌日、ハンター大管長はゴードン・B・ヒンクレー第一副管長、トーマス・S・モンソン第二副管長とともに記者会見に臨んだ。（上）この時の声明の中でハンター大管長は、もっとキリストのような生活を送り、神殿に参入するふさわしさを身につけるよう会員に勧告した。

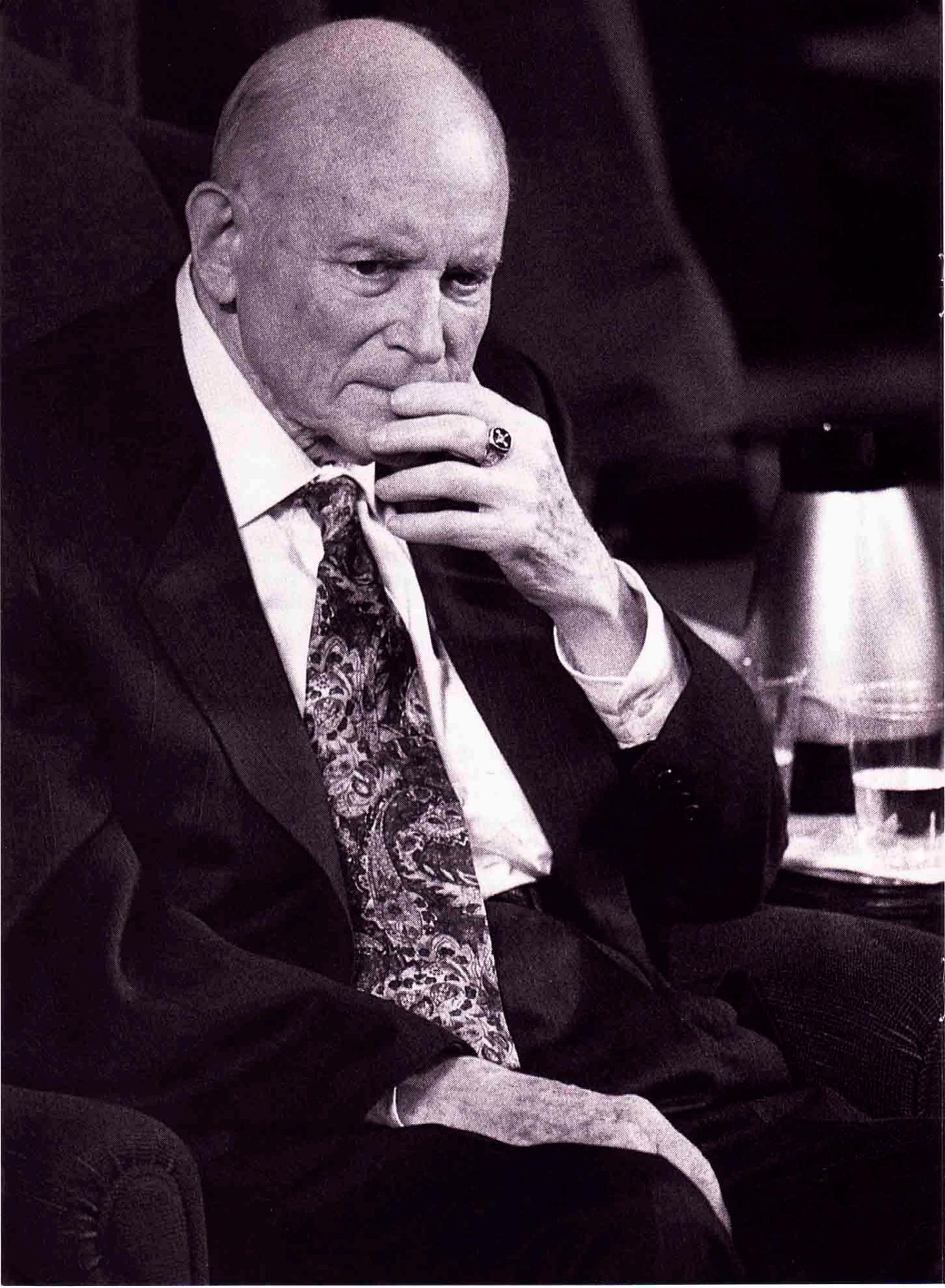
息子たち、旅行、仕事

ワード部やステーキ部の召しで忙しいときでも、ハワードはやはり子供たちのために時間を取っていました。ジョンやリチャードは自分たちの父親が東洋に航海した時の話を聞いたり、綿密な作業を正確にこなす父親と一緒に列車の模型を作ったりするのが特に好きでした。ときどきこの父親は、模型列車の線路の敷設アイデアを得るために、彼らを操車場に連れて行くのでした。家族はまた、屋外円形劇場のハリウッドボウルで行なわれるコンサートを楽しんだり、ハワードの持つずらりと並んだクラシックレコードを聴いたりしました。

また彼らは、家族に世界を見せてやりたいというハワードの願いから恩恵を受けました。それはハワード自身の父親にはできなかった方法によって実現しました。ふたりの息子が伝道を終えるたび（どちらもオーストラリア南部で伝道した）、ハワードとクレアはそれぞれの息子を世界旅行に連れて行ったのです。

ハワードは両親との親しい交わりも欠かしませんでした。そして今度はウィルとネリーが、1953年に行なわれたアリゾナ神殿の団体参入の時、46歳になったハワードにこれまでにない誕生日のプレゼントをしました。神殿の礼拝堂でハワードがステーキ部の会員たちに話をしていると、彼の両親が白い服に身を包んでその場に入って来たのです。ふたりは夫婦の結び固めを受け、彼らの息子と結び固めを受ける準備が整っていました。

そうした間に、ハワードはロサンゼルス^スの法人弁護士となって、25以上の会社から役員として籍を置くように依頼を受けるほどになっていました。依頼人が仕事の報酬を支払えないと、彼は無料で法務相談に応じました。ハワードの法務処理技能は広い尊敬を集め、州裁判所の判事のひとりとして候補に上がりました。しかし彼

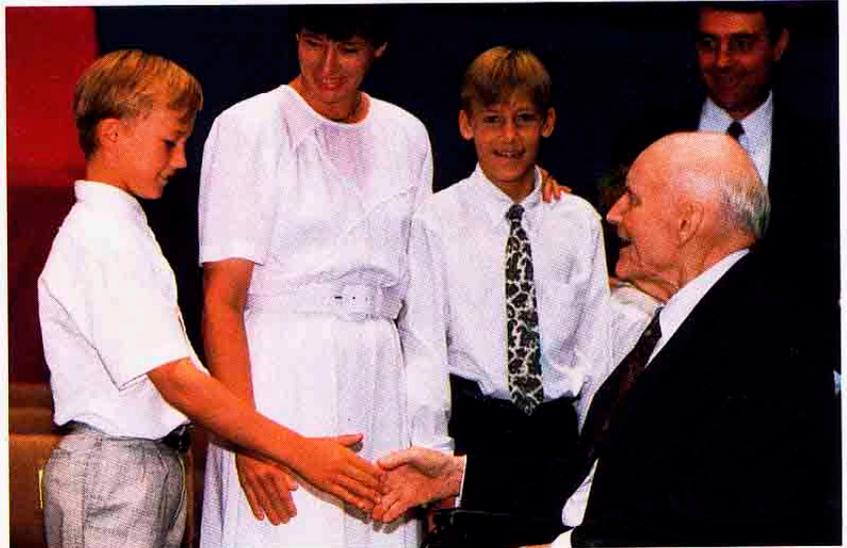


困難が人格を練り上げる

「時の初めからあらゆる時代の人々が……取り組まなければならない問題を抱えてきました。さらに一人一人が、その人を特徴づけるかのような一連のチャレンジを受けています。……」

これらの経験を通して謙遜になり、人格が磨かれ、学んでいくなから、私たちはさらに善良で、感謝の心と愛に満ちた者となり、苦しんでいる人に対して思いやり深くなれるでしょう。

そして、最も過酷な状況にあるときでさえ、困難や予言は義人にとっては祝福となり、あまりふさわしくない者にとっては悔い改めへと導く役割を果たします。」
(「ニューエラ」1994年1月号、p.6)



PHOTOGRAPH BY LEW LEAVITT

ハンター大管長は長年にわたって健康上の問題と闘わなければならなかった。夫人の健康問題も含めてである。にもかかわらず彼は自分の受けた召しに常に忠実に奉仕し続けた。総大会の中で物思いにふけるハンター長老。(右ページ) 1994年9月、アリゾナ州ツーソンの大会で教会員たちと言葉を交わすハンター大管長。(上) その1カ月ほど前にスイスに行った際、ハンター大管長は家族や友人とともにしばしばたすんでアルプス山脈の景観に見入った。(下)

はこの機会を丁重に断りました。独立した法律事務所と、それによって得られる自由、つまり教会で奉仕しそのほかの関心事に打ち込める自由は、判事としての名声よりも彼にとっては大きな意味を持っていたからです。

教会での常任の務め

1959年10月、ハワードとクリアがいつものようにソルトレークシティの総大会に向かうと、デビッド・O・マッケイ大管長から次のような連絡を受けました。「主が語られました。あなたは主の特別な証人のひとりに召されました。明日、あなたは十二使徒評議員会会員として支持を受けます。」ハワードは完全に圧倒され、言葉が出ませんでした。

ハワード・W・ハンター長老は翌日、十二使徒定員会のひとりとして支持を受けます。1959年10月10日のことでした。デビッド・O・マッケイ大管長は、10月15日に彼を十二使徒に聖任し、十二使徒定員会の一員として任命しました。こうして彼は、35年間、その職にあって務めを果たしました。

使徒に召された最初からハンター長老は、教会員数の世界的な急増傾向から生じる必要にこたえるため、絶えず旅行をしました。常に地理と文化の熟達した学び手であるハンター長老は、自分で旅程を計画し、目的地の歴史を学び、到着してからの特別な歓迎を避けてきました。ステーキ部を組織し、指導者たちに助言を与えるという通常の多忙な務めに加えて、彼はトンガでは小型の船で巡回しながらトロピカルストーム(訳注—風力8—11の台風)に遭い、パナマでは通り魔から逃れ、ノルウェーではブリザード(暴風雪)の中で自動車を押ししました。

1975年にはメキシコシティで特に忘れられない旅行をしました。この時は、5つのステーキ部を15のステーキ部に分割するという、教会史上比類ない記録を残したのです。



PHOTOGRAPH BY LOWELL R. HARDY



すべての教会員が神殿に参入

するふさわしさを身につける

「教会員の皆さんが主の神殿を教会員であることの崇高な象徴とし、最も神聖な誓約を交わす至高の場とするようにお勧めします。神殿に参入するふさわしさをすべての教会員が身につけるよう、心から願っています。神殿が近くにないために、すぐにあるいは頻繁に参入できないとしても、すべての成人会員がふさわしい生活をし、有効な神殿推薦状の発行を受け、所持できるように願っています。」（「エンサイン」1994年7月号、p.5）



PHOTOGRAPH BY ERNIE REED

ハンター大管長は死者を贖^{あがな}うみ業に生涯献身し、頻繁に神殿に参入した。神殿に参入するという勧告を、彼は大管長としての在職期間中、特に強調した。1994年10月、ハンター大管長はフロリダ・オーランド神殿を奉献した。献堂式当日、同神殿の前で、ゴードン・B・ヒンクレー第一副管長、トーマス・S・モンソン第二副管長とともに。（左ページ）献堂式の出席者と語り合うハンター大管長とイニッシ夫人。（上）

ハンター長老はほかにも多くの責任を引き受けました。1964年から1972年までユタ系図協会（現在は教会の家族歴史部）の会長を務めたハンター長老は、神殿活動に名前を提出するための緩慢でふじゅうぶんな方法を解決するために、コンピューターの導入を指導しました。また、1970年から1972年まで教会歴史家として働き、ブリガム・ヤング大学に拠点を置く中央アメリカの研究組織、新大陸考古学財団では24年間働きました。このころメキシコとグアテマラには年に2、3回訪れ、毒蛇からでこぼこ道に至るまであらゆる事柄に遭遇し、そうした旅行に伴う冒険や知識の啓発を満喫しました。

1965年から1976年にかけて、ハンター長老の組織力によって、チャーチカレッジ・オブ・ハワイ（現ブリガム・ヤング大学ハワイ校）の附属機関であるポリネシア文化センターを、収益のない無名の施設からハワイ全土で最も人気のある観光名所のひとつにまで発展させました。

ハンター長老の持つ交渉力やほかの文化に対する思いやり、熟練した法律家としての思考力が最も要求されたのは、聖地で与えられた責任だったかもしれません。1970年代中ごろにオルソン・ハイド記念公園建設の監督に携わったハンター長老は、今度は一層複雑な責任を受けて再びエルサレムに向かいました。1979年以来、ハンター長老はブリガム・ヤング大学近東研究エルサレムセンターの土地の購入交渉、および建設の監督に際して重要な役割を演じました。しかし1984年の最終的な貸借契約書に署名する段階になって、地元の反対運動が高まり、計画が挫折しそうになりました。この決定的な時期にあり、研究所の設置を支持するアメリカ議会の書簡を携えて来たハンター長老の交渉力が問題解決に役立ちました。1989年5月には、当時は背中^{きさき}の手術を終えたばかりであったため車いすに座ったまま、ハンター長老はエルサレムセンターの奉献の祈りを捧げました。



PHOTOGRAPH BY GERRY AVANT, CHURCH NEWS

病氣と健康

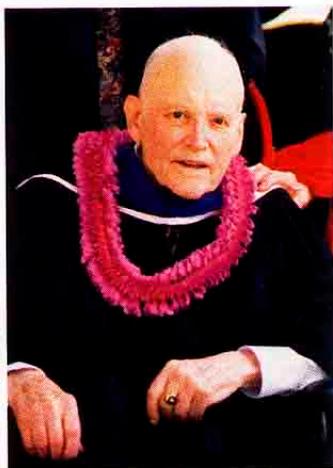
ハンター長老が主の使徒として過ごした多忙な歳月の間、彼とクレアはふたりだけで家庭で過ごしたり、カリフォルニアにいる18人の孫と一緒にいたりする時間を大切にしました。ふたりの息子はどちらも弁護士になり、カリフォルニアでジョンはルイン・ベリーと、リチャードはナン・グリーンと結婚しました。ハンター長老が息子の家族を訪問するために何度もロサンゼルス空港に降り立ったため、ある孫は彼を「飛行場に住んでいるおじいちゃん」と呼びました。

70年代の初めのころ、ハンター家の家族に病魔が襲いました。クレアが記憶を失い、頭痛を患って、1976年に手術を受けたのです。それ以後、クレアは終日看護を必要とするようになり、これは夫と家政婦によって行なわれました。さらに1981年にはクレアは脳いっ血を起こして歩くことも話すこともできなくなります。しかし、彼女の夫は自分で看護できるように自宅療養を主張しました。1982年にクレアがもう一度脳いっ血を起こすと専門の治療施設に入ることを余儀なくされました。ハンター長老は毎日病院を訪れ、旅行の後は空港からまっすぐ病院に向かいました。1983年10月にクレアが亡くなった時、十二使徒定員会のジェームズ・E・ファウスト長老はこう述べました。「ハンター長老が伴侶に語りかける時のやさしさは、悲痛ではありますが、深い感動を呼び起こしました。これほどまで妻に献身する夫の姿を、私はこれまで見たことがありません。」

大管長に就任後、ハンター大管長は奉仕の業への歩みを一層速めた。この間、彼の健康は一時的に回復した。1994年11月、プリガム・ヤング大学ハワイ校のエリック・B・シャムウエー新校長の就任式を管理した。(右ページ) この時大管長はイニツシ夫人とともに同地のポリネシア文化センターも訪れた。(上)

キリストを基とした生活

「このことを忘れないでください。私たちの生活と信仰がイエス・キリストとその回復された福音を基としたものであれば、物事のうまくいかない状態がいつまでも続くことはありません。一方、救い主とその教えを基とした生活を送っていなければ、どんな成功も永続しません。」(『恐れるな、小さい群れよ』「1988-89年度ブリガム・ヤング大学礼拝集会およびファイヤサイド説教集」p.112)

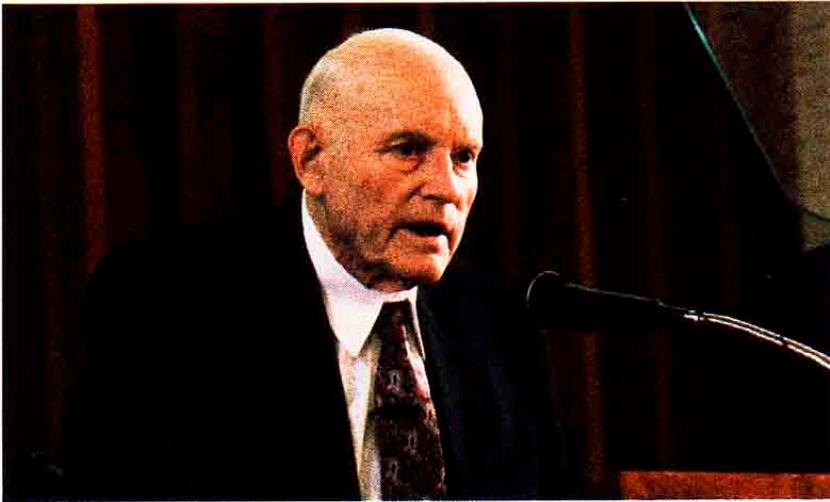


PHOTOGRAPH BY NETWORK PHOTO, LAIE

クレアの亡くなる以前にハンター長老自身も健康を害しました。1980年には、良性腫瘍を除くための手術を受けましたが、10年間のうちにさらに健康上の問題が起き、心臓発作、冠動脈バイパス手術、背中の痛みなどを経験しました。1987年、当時十二使徒定員会会長代理の職にあったハンター長老は危うく死にかけ、4リットル以上の血液が潰瘍出血かいようの手術に使われ、その後腎臓を悪くしました。それらがゆっくり快復したかと思うと、背中の問題でまた手術が必要になり、痛みはいくらか和らいだものの足に絶えず激痛が走るようになりました。

この試練の中でも、友人や同僚たちはハンター長老の不平を聞いた記憶がありません。良質のユーモアと思いやりは彼のトレードマークになり、1987年10月の総大会の時に車いすに座ったまま、ハンター長老が開口一番に語った言葉はよくそれを示しています。「失礼とは思いますが、座ったままで話をさせていただきたいと思います。……皆さんがいすに座って楽しそうに話を聞いておられる様子を見て、私もそれに倣いたいと思います。」(『扉』「聖徒の道」1988年1月号、p.60) 1989年4月の総大会ではハンター長老はいつもの落ち着きと回復力を示しました。歩行器の助けを借りながら、ほとんど動かない足で立って話をしている最中にバランスを失い、後ろにあった生け花の上に倒れてしまいました。しかしすぐに助け起こされて話を続けました。後で検査をすると、この時倒れたためにろっ骨を3本折っていました。

ハンター長老にとってその10年間の終わりの時期には、心に残る出来事がいくつかありました。まず、マリオン・G・ロムニー長老の死去の後、1988年6月2日に十二使徒定員会会長に任命され、支持を受けました。次いで1990年には、十二使徒の会合の終わりにハンター会長は何げなく次のような発表をしました。「きょうの午後、私は結婚します。相手のイニッシ・スタントン姉妹はカリフォルニアにいた時からの古い友達で、最近彼女と何度か会い、結婚することに決めました。」その日の午後に内輪の人々だけで結び固めを終えると、ハンター夫妻の親密で多忙な生活が始まり、やがてふたりでグアテマラ、モスクワ、イスラエルを訪問することになりました。



PHOTOGRAPHY ON THIS PAGE BY MICHAEL MORRIS

奉仕し、成長する

「移ろいゆく名声を得ることに執着してはなりません。また、真実価値のある事柄を魅力的に輝くまがいものに置き換えてはいけません。そうではなく、人知れず行なう働きに心を向けるべきです。そのような働きは……神が心にかけてくださっています。……事実、人々の称賛と注目は、非常に有能な人々にとってさえ、霊的な意味でアキレスけん、つまり弱点ともなり得るのです。……」

もし皆さんが、自分のしていることの多くは有名になるのに役立っていないと感じているようでしたら、考え直してみてください。これまで地上に生を受けたりっぱな人物のほとんども、あまり有名ではありませんでした。人に仕え成長しましょう。目立たなくても忠実に生きましょう。」(「エンサイン」1992年4月号, pp.66-67)

ハンター大管長は人前に出ることを好まないが、教会での長年の奉仕の期間、歴史的な出来事に数多くかかわった。1994年12月11日には、教会の2,000番目のステーク部であるメキシコシティ・コントララスステーク部を設立した。5つのステーク部の末日聖徒が、ハンター大管長に会い、話を聞こうと駆けつけた。

しかしハンター長老の苦痛がなくなったわけではありません。1992年に内出血を起こして入院しましたが、ゆっくりと快復に向かいました。1993年の2月、ブリガム・ヤング大学で19ステーク部合同のファイヤサイドで話をしようとしたところ、ひとりの男が爆弾と称する物を持って壇上に駆け上がり、ハンター会長を除いて全員に引き下がるように命令しました。そして用意してきた声明文を読み上げるように強要しましたが、ハンター会長は断固として拒否しました。すると会場になっているマリOTTセンターのおおぜいの聴衆が『感謝を神に捧げん』(賛美歌11番)を歌いだし、暴漢の注意がそれた瞬間を突いて警備員が彼を押さえ込みました。ハンター会長はすぐに気を取り直すと、用意した話を始めました。「人生にはかなり





PHOTOGRAPH BY JOHN HART, CHURCH NEWS

教会の2,000番目のステーキ部（メキシコでは129番目に当たる）の設立を管理した後、ハンター大管長はメキシコシティー神殿での祝典で話をし（上）、続いて神殿のクリスマスライトのスイッチを入れた。大管長のこの訪問は、メキシコに集会所がわずかしかなかった当時を覚えている人々にとっては、教会歴史上とりわけ輝かしいひとときとなった。

多くのチャレンジがあります。」何事もなかったように話し始めるとこう付け加えました。「ただ今、ご覧になったように。」

3カ月後にハンター会長は胆嚢たんのうの手術を受けましたが、その後昏睡状態こんすいに陥りました。数日後、意識が回復して医師たちを驚かせました。意識明瞭な完全な回復だったからです。

第14代大管長

1994年5月30日にエズラ・タフト・ベンソン大管長が死去すると、ハワード・ウィリアム・ハンター長老が末日聖徒イエス・キリスト教会の予言者、聖見者、啓示を受ける者として同僚の使徒たちから6月5日に支持され、任命を受けました。翌日の月曜日には、報道機関に向かって語りかけ、在任中に強調したいふたつのテーマを発表しました。すべての教会員がもっとキリストに似た者となり、神殿推薦状を所持するふさわしさを身につけた民、神殿に参入する民になる必要がある、というテーマです。

ハンター大管長は直ちにこの勧告を、ほかの教えも合わせて、できるかぎりお



PHOTOGRAPH BY GERALD W. SILVER, CHURCH NEWS

ぜいの聖徒たちに伝えました。6月にはユタ州プロボの宣教師訓練センターで2,200人の宣教師たちを前にして教え、同じ月の下旬にはイリノイ州にあるノーヴーとカーセージを訪れ、ジョセフ・スミスとハイラム・スミスの殉教150周年を記念して開かれた3つの集会で話しました。

7月にハンター大管長は、国外に出る旅行としては教会の大管長になって以来最初の旅をしました。ローザンヌで開かれたファイヤサイドでは、スイスの「熱烈な独立心を持った人々」と3つの公用語を持ちながらも保たれている国民の一体性を称賛しました。（『ハンター大管長がスイスを訪れた8日間』「チャーチニュース」1994年8月20日付、p.11参照）

「もっと完全に変わりましょう。」アリゾナ州ツーソンで9月に行なわれた合同地区大会の席上、彼は1,300人の聖徒たちに向かってそのように呼びかけ、新しい大管長会の特徴となったテーマを再び強調しました。ハンター大管長は10月に同じテーマを第164回総大会でもこう繰り返しました。（マイク・キャノン『予言者は語る「もっと変わりましょう」』「チャーチニュース」1994年9月24日付、pp.3-4参照）「主イエス・キリストの生涯と模範に……さらに注意を払って生活するよう……。」（『^{たつと}尊く、大いなる約束』「聖徒の道」1995年1月号、p.9）またこう勧告

ハンター大管長が最後に公の場に姿を見せたのは、1995年1月8日にユタ・バウンテフル神殿を奉献した時だった。（上）献堂式でのハンター大管長とふたりの副管長。この翌日、大管長は最後の入院をすることになった。献堂式で大管長は同胞である聖徒たちに、主の宮居でさらに清くたゆめぬ奉仕をするよう、純粋な心と献身的な態度で勤めた。



神殿に速やかに参入しましょう

「神殿に参入し、神殿を愛する民となりましょう。時間的、経済的、個人的な事情が許すかぎり、頻りに、速やかに神殿に行きましょ。それも亡き親族のためだけでなく、神殿での礼拝に伴う祝福を自分自身が受けるために、また奉獻された壁の内側で授けられる聖めと安らぎを受けるために参入しましょう。神殿は麗しい場所であり、啓示を授かる場所であり、平安の宿る場所です。そこは主の宮居であり、聖きを主に捧げる場所です。同時に、私たち自身にとっても聖なる場所でなければなりません。」（「聖徒の道」1994年11月号、p. 6）

しました。「主の神殿を教会員であることの崇高な象徴とするように……。」（同上、p. 9）そして同じ月の下旬には、フロリダ・オーランド神殿を献堂しました。

ハンター大管長がその思いを語るとき、世界じゅうの教会員たちが耳を傾けました。「時折、なぜ私は生かされているのだろうかと考えました。しかし今は、その疑問をわきに置いて、ひたすら教会員のかたがたの信仰と祈りを求め、皆さんとともに力を尽くして働き、私たちの人生のこの時期に神の目的が果たされるようにしていきたいと思っています。」（同上、p. 8）

ハンター大管長は年末まで精力的に働きました。しかし年が明けると、新たな健康上の問題が持ち上がりました。1995年1月、ユタ・バウンテフル神殿を献堂して6つのセッションを管理すると、ハンター大管長は疲労こんぱいして入院しました。後日医師団は、1980年に手術した前立腺癌が骨に転移していることを告げました。

1月中旬にハンター大管長は病院を退院すると、自宅のアパートで大管長会の務めを続けました。3月3日、伴侶であり、看護婦であり、私設秘書であったイニッシの見守りを受けながら自宅で息を引き取りました。

ハワード・W・ハンター大管長が理解していたように、主のぶどう園は絶えず養いを必要とし、主が彼に求められるものはただ「良い忠実な僕」（マタイ25：23）になることだけでした。ハンター大管長は真の偉大さを備え、常に救い主の模範を心に留めながら、この使命を果たし、愛をもって謙遜に主に最後まで仕えたのです。

□

ハワード・W・ハンター

大管長の年表

(1907-1995年)

年	出来事					
1907	11月14日	アイダホ州ボイシに生まれる。	1961	新大陸考古学財団諮問委員会委員長に任命される。		
1911		ポリオにかかるが快復する。	1964	教会の系図協会会長になる。		
1920	4月4日	バプテスマを受ける。	1965	ハワイのポリネシア文化センター所長に任命される。		
	6月21日	執事に聖任される。	1966	グラナイトマウンテン地下記録保管庫の奉獻を管理する。ここには系図関係のマイクロフィルムが保管されている。		
1923	5月11日	イーグルスカウト章を取得。	1968	トンガのステーキ部を組織。これは、その後彼が世界各国で組織した多くのステーキ部の最初のステーキ部である。		
1924		ダンスバンド「ハンターズ・クルーネイダーズ」結成。	1969	教会主催の第1回記録文書世界大会を企画。		
1926	6月3日	ボイシ高校を卒業。	1970	教会の歴史家および記録家に召される。モスクワで開かれた公文書国際会議、ウィーンで開かれた系図・紋章学国際会議に参加。		
1927		「ハンターズ・クルーネイダーズ」とともに東洋へ航海に出る。	1971	記録のマイクロフィルム化に関するイタリアでの交渉に貢献。		
	2月6日	父親がバプテスマを受ける。	1972	クレア夫人の健康状態が悪化し始める。		
1928		カリフォルニアへ引越し、銀行に就職。	1974	エルサレムのオルソン・ハイド記念公園の建設とその資金集めの事業を監督。		
1930		祝福師の祝福を受ける。	1975	メキシコに新たに15のステーキ部を組織する。それまでは5つのステーキ部しかなかった。		
1931	6月10日	クララ（クレア）・メイ・ジェフストソルトレーク神殿で結婚。		5月	ブリガム・ヤング大学舞踏団に同伴して中国訪問。	
1932		大恐慌のため銀行での仕事を失い、臨時雇いの仕事を始める。	1977		福音伝道の地としてパナマを奉獻。	
1934		ロサンゼルス郡洪水防止地区の仕事を得る。	1979	4月	ブリガム・ヤング大学のエルサレムセンター建設のための10年間にわたる複雑な交渉の監督に携わり始める。	
	3月20日	長男ハワード・ウィリアム（ビリー）・ハンター・ジュニア誕生。しかし6カ月後に死亡。		10月24日	オリブ山で行なわれた、オルソン・ハイド記念公園の奉獻に参加。テディ・コレック市長からエルサレム市の記章を授与される。	
1935		サウスウエスタン大学のロースクールに入学。		6月	良性腫瘍摘出のため入院。	
1936	5月4日	次男ジョン・ジェイコブ・ハンター誕生。		7月	心臓発作を起こす。	
1938	6月29日	三男リチャード・アレン・ハンター誕生。	1980		10月9日	クレア夫人死亡。
1939		ロースクール卒業。司法試験合格。	1983			
1940	4月	法律事務所開業。				
	9月	エルセレノワード部の監督に召される。				
1946		監督を解任され、大祭司グループリーダーとして、続いて高等評議員として奉仕。				
1950	2月25日	パサディナステーキ部のステーキ部長となる。				
1953	11月14日	両親と結び固めを受ける。				
1959	10月15日	使徒に聖任される。				
1960		ネバダ州で新しいステーキ部を組織。これは、その後彼が合衆国内で組織した多くのステーキ部の				

1985 2月 ブリガム・ヤング大学のエルサレムセンターの建設反対から生じた緊張緩和を図るためエルサレム訪問。
 11月10日 十二使徒定員会会長代理に任命される。

1986 10月12日 冠動脈バイパス手術を受ける。

1987 背骨の悪化に伴う苦痛緩和の治療を受ける。出血性潰瘍かいようの手術を受ける。背中かいようの手術を受ける。足が不自由になる。
 10月4日 総大会で車いすに座って説教をする。
 12月15日 歩行器を使って神殿での集会に出席。

1988 6月2日 十二使徒定員会会長に任命される。

1989 5月 ブリガム・ヤング大学エルサレムセンターを奉獻する。

1990 4月10日 イニッシ・イーガン・スタントンとソルトレーク神殿で結婚。
 10月 教会幹部との集会中、1987年4月以来初めて立ち上がる。
 12月 肺炎で入院。

1991 肺疾患で入院。

1992 9月 オーストリアを福音伝道の地として奉獻。
 10月 ロンドン神殿の再奉獻に参加。
 11月 内出血で入院。

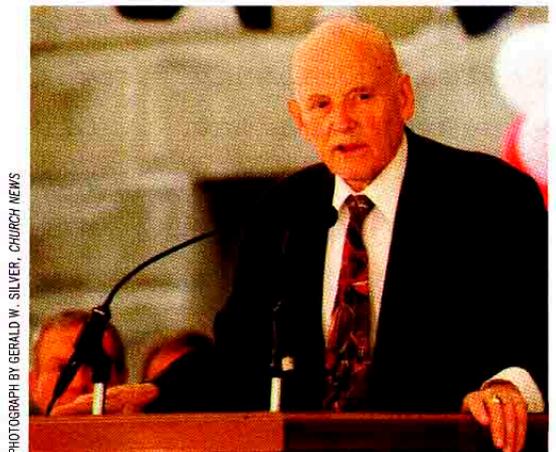
1993 2月7日 ブリガム・ヤング大学で暴漢に襲われる。
 4月 カリフォルニア・サンディエゴ神殿奉獻に参加。
 5月 胆嚢たんのう手術を受ける。

1994 6月5日 教会の大管長に聖任される。
 6月26日 イリノイ州、ノーヴーとカーセージで話者を務める。
 8月8-16日 スイスの聖徒たちと集会を持つ。
 9月13日 衛星放送で全世界の宣教師に話す。
 9月18日 アリゾナ州の大会で話す。
 9月23日 扶助協会大会で話す。
 10月1日 総大会で教会の大管長として支持される。

10月9日 フロリダ・オーランド神殿を奉獻する。
 10月15-16日 カリフォルニア州パサディナステーキ部の58周年記念式典に出席し、ステーキ部大会で話をする。
 11月13日 ユタ系図協会の100周年記念祝賀会で話をする。
 11月18日 ブリガム・ヤング大学ハワイ校の新学長就任式を管理する。
 12月4日 恒例の大管長会クリスマス礼拝集会で話をする。
 12月11日 メキシコシティで教会の2,000番目のステーキ部の設立を管理する。

1995 1月8-14日 ユタ・バウンテフル神殿を奉獻し、6回におよぶ献堂式を管理する。
 1月12日 入院。退院後も自宅で勤務。
 3月3日 自宅にて死去。

知性にあふれ、高い霊性を備えたハンター大管長は、至る所の人々に救い主に従い、その生涯と愛に倣うよう奨励した。



PHOTOGRAPH BY GERALD W. SILVER, CHURCH NEWS



PHOTOGRAPH BY TOMSMART, DESERET NEWS

1994年6月に組織された大管長会。左から、ゴードン・B・ヒンクレー第一副管長、ハワード・W・ハンター大管長、トーマス・S・モンソン第二副管長。

終わりまで堪え忍ぶ

「私は、天の御父が私たちに求めておられる偉大さというものは、福音を信じるすべての人が達成できるものだと思っています。私たちの周りには、私たちが偉大にしてくれる、小さな、単純なことがたくさんあります。ですから、主と同胞への奉仕と犠牲にその身を捧げてきた人々に、私は、何を申しあげるよりも、今までしてきたこと

をただもっと行なうようにと申しあげたいと思います。

この世のごくありふれたことを行なって、自分が一体どれほどのことをしているのだろうと考えている人、教会の中で熱心な働きをしている人、地味であっても大切なさまざまな分野で主のみ業を推し進めている人、また地の塩、この世の力、国の力として働い

ている人、そのような人々に、私たちは心から称賛の言葉を贈りたいと思います。終わりまで堪え忍び、イエスの証あかしに雄々しくあるならば、皆さんは真の偉大さを身につけ、天の御父とともに住むことができるでしょう。」
(「聖徒の道」1982年7月号、p.35)